

# ゆめぴか通信

「ゆめぴか通信」は、地域で働く看護職に向けて、鹿児島県看護協会保健師職能委員が作成し、情報発信する機関誌です。

平成 29 年度、第 1 回目の保健師研修会を開催しました！

## 「キャリア形成について考える」

～今まで何をやってきた？ 今から何をしよう！～

平成 29 年 7 月 21 日（金）看護研修会館 3 階 大研修室にて開催

参加者 40 名

### 報告

- ①日本看護協会総会報告 保健師職能委員長 西原 洋子
- ②県保健師人材育成ガイドラインチェックリスト集約報告  
県保健医療福祉課 久保技術補佐

### 講演「今、何故キャリア、キャリアラダーが求められているか」

講師：大阪市阿倍野区役所保健福祉課 保健副主幹 松本珠実氏



- 人材育成の目的は、力量をアップさせることで、それが地域住民の利益になる。
- 地域から課題を拾い上げ、新たな施策が作れているか？展開できているか？
- 保健師の能力は、全体像をとらえること。システムを作る。統合するのは高い能力が必要である。
- 小規模市町村では、自分達の所で人材育成するのは難しい面がある。
- 適材適所・職員のライフサイクルを考慮した人事配置を行う。
- キャリアラダーとは、キャリアの「はしご」。次のレベルに上がっていくために必要な職務内容やスキルを明確にする。
- キャリアシートを活用する。まずは、自分で書き、言語化してみることが大事。
- 職務のためには、能力（自分ができること）、モチベーション（自分がしたいこと）、役割（自分にもとめられること）の 3 つが同じくらいのバランスがとれている必要がある。

### 先生からのメッセージ

保健師は疲弊する事がある。お互いに声掛けをし、モチベーションを高めよう！  
家族愛を感じよう！誰もが成長できる存在、一緒に育ちましょう！

## 各期の報告（新任期から管理期まで）

### 「保健師として歩いてきた道」

#### 新任期

十島村役場 住民課 肥後保健師  
口之島出身。5年看護師として働き、十島村の保健師となり4年目。母子保健や、健康増進の業務を通して、各ライフステージの方々への支援を実施。優先順位の付け方や、困難事例については、先輩や保健所に相談。

#### 中堅期前半

川薩保健所 鷲狩保健師

7年目。2か所目の県庁介護福祉課では、事業の目的、目指すところを常に考えるよう指導された。また、県保健師として支援者を支える立場である事を認識。現在の頑張りの源は、支援してくれる同僚や、よく頑張っているねと声掛けしてくれる上司の言葉。

#### 中堅期後半期

鹿児島市保健所 大保保健師

17年目。8～13年目、保健センターから離れ、人事課で職員の健康管理の業務。予算や議会等、初めて聞く言葉への戸惑いがあった。他職種の仕事の仕方を学べた。15～16年目は、保健センターでプリセプターを経験。新任期の保健師と一緒に業務の再確認ができた。

#### 管理期

奄美市 徳永保健師

33年目。12年目、以前立ち上げた親子教室が、担当が変わり継続できていない事を知る。事業の共有、目的が示せていなかったと感じ、つながる仕組みづくりの必要性を感じた。23年目～7年間地域包括支援センターでの勤務。多くのケースを通じて、他職種との連携を学んだ。

### 「グループワーク」「今まで何をやってきた？今から何をしよう！」

#### 1グループ：1～7年目

- ・訪問の担当を変えて欲しいと言われた事あり。
- ・地区診断の必要性を感じる。特性を見て、今やっている事業とてらしあわせる。
- ・保健師間での情報共有や、語ることで連携する。
- ・研修に参加し、皆で経験を共有できた。

4グループに分かれて、話し合いを行いました。





## 2グループ：中堅期 5～17年。

- 目指す保健師像⇒地域住民に信頼され、困ったときに思い出してもらえる。
- 再度担当したときに、お帰りと言ってもらえる。
- いま必要なことを見極められる。
- 地域の方を側面で支える。

## 3グループ：中堅期後期

- 合併後、事業を回すので精いっぱい現状。
- 担当業務を上司（事務職・保健師）に分かってもらう必要がある。
- 後輩保健師を育てていく力も必要。
- 仕事と家庭の両立。自分の体調管理もしっかりと。

## 4グループ：管理期 25年以上の保健師。

- 人材育成や統括としての役割⇒一人ではできないので、皆で取り組むシステムとして作り上げる。
- 多職種連携、他部署との連携も大事。
- 健康が大事。体力を維持しながら続けていく。

### 講評・助言（松本先生）

1グループ：まずは個別事例とのかかわりを大切に。失敗から学ぶことも大事。

2グループ：頼りにされ、信頼されるためには何ができればいい？

日々の積み重ねが大事で、自分がどこまでできるかもわかっておくことも大事。

3グループ：育児休暇あけに戻ってきたとき、経験年数ではなくキャリアラダーでみていく。

個別から施策化、住民と一緒にあって合意形成をしていくことが大事。

4グループ：組織を分析、組織診断をする必要がある。

物事を解決するための多職種連携。

元気で仕事を続ける。自分がゆとりを持って組織をみれるかも大事。

次回研修会のご案内 平成 29 年 9 月 30 日（土）  
三職能合同研修会 内容：母子の切れ目ない支援のために

看護協会への入会お待ちしております！

